

# 医療情報システムと医療安全の側面から 医療の質を考える

加藤 英之<sup>†</sup>第74回国立病院総合医学会  
(2020年10月17日～11月14日  
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 2 (122-124) 2022

## 要旨

平成11年に「診療録等の電子媒体による保存」が認められて以降、それまで他業種と比較して導入が遅れていた医療業界にもコンピュータの導入が加速することとなり、現在までに多くの医療機関で電子カルテが導入されている。

一口に電子カルテといっても多くの開発元から販売されており、さらに各医療機関向けにカスタマイズされているケースも少なくない。しかし、基本的な機能だけを見ても各社の電子カルテごとに特徴があり、機能的に十分でないものも散見される。

また、とくに国立病院機構では「システムエンジニア」の常勤採用が難しく、医療情報システムの保守・運用について苦慮している場面も少なくなく、前半では電子カルテを中心とした運用面での工夫について述べる。

後半では電子カルテに入力されたデータをどのように生かすかを中心に考えた。

診療録を電子媒体で保存することによる最大のメリットは「データの二次利用」にあると考えられるが、残念ながら現在電子カルテに保存されているデータは各施設で活用されているのみで、十分に活用されているとは言い難い。

国立病院機構内で各施設から匿名化したデータを集約してビッグデータとし、年齢、性別、基礎疾患、主訴、バイタル、検査結果などを元として、条件にあてはまる患者データを検索して考えられる疾患をヒット数の多い順から提案してくれる「診断支援ツール」のようなシステムが実現できるのではないか。

もちろん診断の最終責任は医師にあることには変わらないが、「診断支援ツール」の活用により医師の経験や診療科による診断の差を埋め、適切な医療を提供するための補助となるのではないか。

キーワード 電子カルテ, 診断支援, ビッグデータ

## 医療安全に寄与できる 電子カルテの機能について

対応可能な機能のうち、医療安全に寄与すると思われるものをいくつかピックアップした。

国立病院機構西別府病院（当院）で使用している

・薬剤標準投与量逸脱警告

国立病院機構西別府病院 診療情報管理室 †診療情報管理士

著者連絡先：加藤英之 国立病院機構西別府病院 診療情報管理室 〒874-0840 大分県別府市大字鶴見4548番地

e-mail : kato.hideyuki.yk@mail.hosp.go.jp

(2021年1月29日受付, 2022年4月15日受理)

Ensuring the Quality and Safety of Medical Care by Utilizing Medical Information in Multiple Occupations

Considering the Quality of Medical Care from the Aspects of Medical Information System and Medical Safety

Hideyuki Kato, NHO Nishibeppu Hospital

(Received Jan. 29, 2021, Accepted Apr. 15, 2022)

Key Words : electronic medical record, diagnostic support, big data